

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 24 年 3 月 29 日発行

第 41 号

発行人 校長 鈴木史良

3年生50名の巣立ち

—— 新たな世界に大きく羽ばたく深中生 ——

3月19日（月）、深良中学校第65回卒業証書授与式が粛々と挙行されました。義務教育すべての課程を終えた3年生50名は、わずかな緊張はあったものの堂々と自信にあふれる態度で卒業証書を受け取り、在校生も3年生の一举手一投足をくいつくするように見つめていました。学校生活の日常とは違う世界が体育館中に広がり、敬虔な空気が流れていました。在校生たちも3年生が伝える立ち居振る舞いをこうして受け継いでいくのでしょうか。

式に参列された来賓や保護者の皆様も、子どもたちの成長を祝福し、ともに喜びを共有していただいたことと存じます。在校生、卒業生による送辞、答辞、合唱も見事なできばえで、参列者の心に響きました。私も意を尽くせたかどうかわかりませんが、式辞をとおして卒業生に私の思いを伝えました。その一部をここに紹介いたします。

<校長式辞>より

峠は決定を強いるところだ
峠には決別のための明るい憂愁が流れている
峠を登りつめたものは
のしかかってくる天碧に身をさらし
やがてそれを背にする
風景はそこで綴じ合っているが
ひとつを失うことなしに
別個の風景に入ってゆけない
大きな喪失にたえてのみ
あたらしい世界がひらける （真壁仁「峠」より）

この詩のいう「峠」とは、今みなさんが立っているところのように私には感じられます。本校において、みなさんの存在はとても大きなものでした。いろいろな行事での活躍ばかりでなく、日常生活、廊下ですれ違った時の挨拶、授業中の発言、下級生への思いやり等、それらの積み重ねにより、みなさんの存在が深良中にはなくてはならない大きな存在になっていたのです。みなさんは今深良中学校という峠を確実な足取りで登り切りました。

本校は大きな存在を失うことになりません。進路が決定した3年生のみなさんとは本当にお別れとなりますが、詩人が言うように、ひとつのものを失うことなしに別個の風景に入っていくことはで



担任の先導で入場した3年生



卒業証書授与の一瞬



卒業生の歌声は永遠に

ません。しかし、失うことのつらさや悲しみにたえてのみ、あたらしい世界がひらけてくるといふ詩人の言葉はわたしたちに勇気と希望を与えてくれます。

(以下略)

離任される先生方



白井淑子教頭先生(御殿場・印野小校長へ)

晴れてよし 曇りてもよし 元の姿は変わらざりけり (山岡鉄舟) 深良からの富士山は格別! 裾野市を離れても同じ富士山を眺めることができ幸せです。生徒、保護者、地域の皆様、素敵な思い出をたくさん、ありがとうございました。



内田裕子先生(裾野東中へ)

家庭的な良さいっぱいの学校で、一所懸命がんばる皆さんの輝く瞳、笑顔、そして歌声を忘れません。それから深良から望む美しい富士山も。本当に、ありがとうございました。



中村有花先生(裾野東小へ)

「初めて」がたくさんつまったこの深良中学校は私にとって今もこれからも特別な場所です。何にもわからなかったのに、なぜかいつもわくわくしていたあのときを思い出すと今でも胸がいっぱいになります。「初心」大切に。



高橋駒美先生(三島北中へ)

このたび三島市立北中学校に異動することになりました。生徒の皆さんと保護者の皆様に支えられながら、3年間楽しく過ごすことができました。これからも元気に頑張ってください。ありがとうございました。



大嶋久美子先生

深中での2年間、毎日楽しく過ごせました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。皆のこと、忘れません。また、どこかでお会いしましょう。



田代昌平先生(裾野西中へ)

皆さんと出会い、早いもので1年の月日がたちました。様々な行事を通して、本当に多くの思い出を作ることができました。来年度はお隣の裾野西中にいますので、また遊びに来てください。



土屋博子先生

深良中の皆さん、1年間という短い期間でしたが、楽しく過ごすことができました。事務室の中で過ごすことが多かったので、あまり皆さんと接することがなかったことが残念です。またどこかで出会ったら、声をかけてください。



杉山由利子先生

1年間お世話になりました。素直な生徒たちの真剣に授業を受ける態度に感動しました。深良中に勤務でき、皆さんと出会えたことに感謝しています。今までありがとうございました。

離任される8名の先生方、深良中学校の教育にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。深良中学校を離れても、共に学び、共に働き、共に語り合った思い出はいつまでも私たちの心に残っています。いつまでもお元気で・・・。